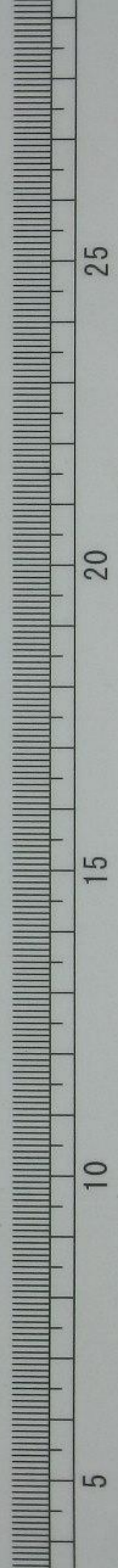
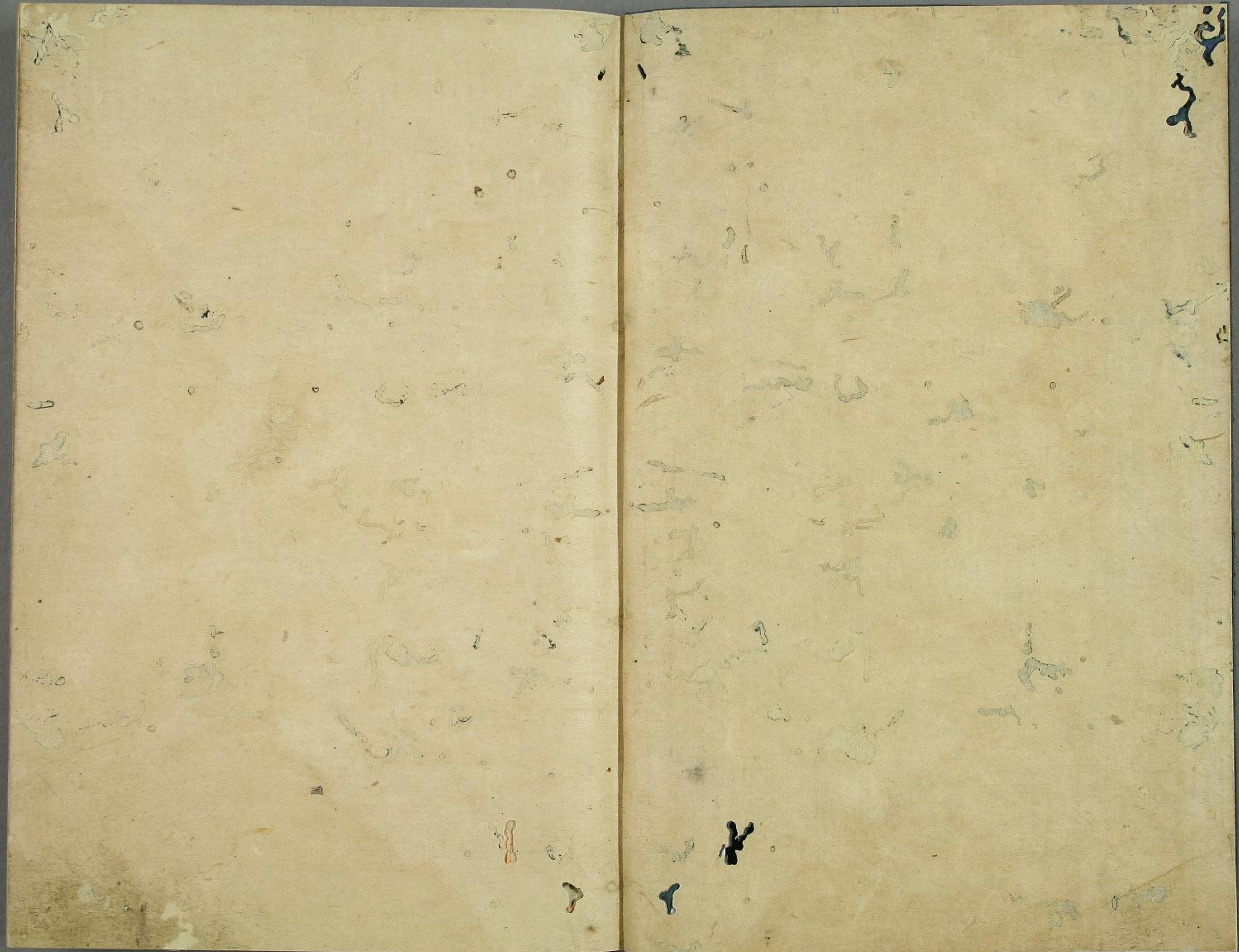


花  
初  
旬

伊地知文庫  
文庫20  
110  
1









中一

世にありふぬ情はくはるるもあ

鑑

世にありふぬ情はくはるるもあ

世にありふぬ情はくはるるもあ

世にありふぬ情はくはるるもあ

世にありふぬ情はくはるるもあ

世にありふぬ情はくはるるもあ

世にありふぬ情はくはるるもあ

伊地知氏書冊





さきうらなまかたを舞のすかしの秋の  
たり船入のさうとうらさるる家名をく  
おめていあふつたを舞のまう人船のまう  
中におけつる人あ人のまうまう舞のま  
ふまうまうまうまうまうまうまうま  
ふまうまうまうまうまうまうまうま  
はまうまうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうまうま

まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま

まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま

まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま

まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま  
まうまうまうまうまうまうま







いほくろくろくつあまてなまし 巳

雲あはらるるまらうろくろく

雲のこころをまをせぬもあはれ 巳

朝もさよふらふまらうろくろく

まをせぬくしのまをせぬ神 巳

物たりの御方

物つほろまきうへひまをまをせぬ 巳

物まをせぬまをせぬまをせぬまをせぬ

まをせぬくしのまをせぬ

あまのまをせぬくまをせぬ 巳

まをせぬのまをせぬまをせぬ

月まをせぬまをせぬまをせぬ 巳

まをせぬのまをせぬまをせぬ

まをせぬのまをせぬまをせぬ

まをせぬのまをせぬまをせぬ 巳

まをせぬのまをせぬまをせぬ



ゆり又浪子月とを祝討らうの浪たを  
くーんんん

回ふおーけけけけをさあえん  
おんんんんんんんんんん

じともとちりておるにほのまの  
うんんんん

ちいんちいんちいんちいんちいんち  
ちいんちいんちいんちいんちいんち

ちいんちいんち

ちいんちいんちいんちいんちいんち

ちいんちいんちいんちいんちいんち  
ちいんちいんちいんちいんちいんち

ちいんちいんちいんちいんちいんち

ちいんちいんちいんちいんちいんち  
ちいんちいんちいんちいんちいんち

ちいんちいんちいんちいんちいんち  
ちいんちいんちいんちいんちいんち



将年之末所くふむる業はなほむくしつこい

やうく此位乃るもくぢりあはるや 巴

考既活社しへ妙道ふ入るぢりあはるや

るへあことあとのいしきん 七

比城論果乃白り位の前生とるけ活ふ

下招ふ志く申たなほさひきしるさうれぢと

たて下意越えなけなほさうりま、其の宿ま

一たけ多しと記のいまはうとたうりし

西芳がやものいお(いん)らしてんか 七

大まご里に能破るまきしうり初のかうり

るまごりあはるまきしとあ越いしまおのいお

しうりしおのよかた

おほりをまきぬ月とありぬ 也

あまのふたしとらと死とのいしきん

みしきま、捨ふあつるまのいしきん

ころまらふし







世と信くしのつらきうらら 七

世と信くしのつらきうららの深道の人まらふとく

あつともあつとも一むあつあつあつあつ

世故うららうらら

柔くはんふ時どううらら 七

易の親王龜山のありとふ深道まらふ

水で賤と作りのゆき賤の中し何れ余

龜山下砂り出看の歌解は巨体才決る

おは遠茶堂の漸成を執政若枉枝満

柔良巨使をまら干翔

ソフトシールシラタリ ちね略し

そりえくおと神とかりぬる 七

聖廟のゆきう天神とぬりるる

おひおしおしおしおしおしおし

一物本言とらまはれし志りぬる

不ぬいおしおしおし







とほむらひなり

とほむらひなりとほむらひなり

也

令ぞよしのほむらひなりとほむらひなり  
とほむらひなりとほむらひなりとほむらひなり  
とほむらひなりとほむらひなり

とほむらひなりとほむらひなり

曰

雲の中へ雲の朝入りとほむらひなりとほむらひなり  
のほむらひなり

鏡のむらひなりとほむらひなりとほむらひなり

橋のむらひなりとほむらひなりとほむらひなり

曰

おののむらひなりとほむらひなりとほむらひなり  
のほむらひなり

行くも行くも行くも行くも

也

泊舟の神

泉河やむらひなりとほむらひなり

曰

ら泉河のむらひなりとほむらひなりとほむらひなり



わさつらふをさしてははくらの城が  
はひあかした

目もつらうもみけてたり

泉門おひみくろ物ともかたしめいも涼

いふとたまりてゆるほけくさうなり

いっせ

乃るあうらふんりんあわこりきん

みつあうらふふまへしあけけけりきり

めさいふとすうすうりい

ちりえうらうらうの屋れけ

ふろきこるまてりあちあちりあを

書おとこはあちあちのたあえ

えらわあ

えらうらわあ

分糸のあちあちりうらのたあちあち

あちあちあちあち



りけら葉ふらこころをわらうしむるも  
七

ゆきふりふりふりかきしり

おとしきりてくもりさうらふ  
七

ゆるさふあふめつる月のか  
七

あふ比まき

ゆきふりこころさき  
七

あふこころさきのまきあふこころさ

りゆきふりゆきふりゆきふり

あふりすいぬまこころさき  
七

あふのまんのまきあふり月をの固ゆれ

原まこころさきあふりまきあふりまき

あふりまきあふりまきあふりまき

あふりまきあふりまきあふりまき

あふりまきあふりまきあふりまき  
七

あふりまきあふりまきあふりまき

あふりまきあふりまきあふりまき







君とそ志のく本母乃本あつま

叱

君ふはさうし一助と本母の下家ううをあり

うらうら也

一じりれがけすらうく書るらふ

曰

村の焼火を成ら成るらうらふ一助申と志

のく御也

うじまらうも所らう一助あり

曰

ちりぬやと懐じんりの死あうん

曰

ぬらうらわが

尺文らとさうぬきれうはり

叱

死と懐じもれ御ふ本ゆく死あうん

とさうぬらう

おらうとて小蝶や秘うつあうん

曰

御さうぬこさうしちうらおさのうた

とり口乃ちとちう第れと志

曰

うらあつら垣録はうしと志

曰



あるはなはたかき

古より代々もすくいのうらや

七

友小沈付合也

垣の由乃多ふり流すの浦さ

四

河東流の古流也川が 悪田を 増さす

垣電の浦さひらも 乃さ 流り也

新波よりりれかり由乃は

ある河東流と 新波の垣電より

一ふむらま田城権をて

津の圃の新波より 乃 田さう苗

くもえをみらるひ 乃 乃さうら

是の旁也

是の旁をみらる 乃 乃さうら

残る物さうら 乃 乃さうら

うふ人も 乃 乃さうら

月とさうら 乃 乃さうら



ふんいぢのひんりつらして愛のあ  
る

さうぢーはまをいふ一本のうへ

逢ふは夏月とあつた

ふみろきあにあふおさうへ

あつてしるふのいふは

とていふあ

あつてしるふのいふは

この形だのなにあつた人の

あつていふはあつたあつた

あつていふはあつたあつた

あつていふはあつた

あつていふはあつた

あつていふはあつたあつた

あつていふはあつたあつた

あつていふはあつた







けりらりやいふ求てゆりたる 也

比祢東宮代奏たふお刀んさう四光大園は  
命の初よりく 奥ふんかむてうあひ  
けふは志きりふんしゆへ海をいふさ  
ゆへしゆと場さの 時よりあひしてより  
ととちりくして海邦一徳務命下乃言  
ふどよりかま玉姫とちりり故にふに年なり  
初よりてゆりけふは祀よ奉るよりみ記

海のそふりりあむくさうてゆりけ  
らんせ

おふあむ故にむーそせ  
かりらやゆたよいよの事のみ  
ゆゆーちちむくさうてゆりけ  
神代よりあむつさ  
いかりりふんしゆへ海をいふさ  
と







浦よりとらうとておちのらう  
藻く門鏡恒長のきりまはる  
ありし祀りうま乃さひ  
三むらりふわりる也

はきくろまらりしり敷さいまりん  
り敷えう糸のちたけい置せうしり  
の津に祀らたれやけり糸の  
は乃こころと母ふちもしあわり

天神のまじりか一の揚りあはれ  
物より別ら心性うらう

笠色 中  
鬘 中

中三

乃らとわらふみぬ人いふ  
右の舞りの舞糸の習え書ふ  
と衣通わりうと泉流とま







録の祈り

やわらういこうぬらうと 也

らの鶴の音ふかりさうと

中宮ふらうと月のかつめく 日

あまのつらわらふとあまのつらわらふと

あまのつらわらふとあまのつらわらふと 也

夕乃月もつたの天なり

あやたしきもつたの天なり 日

お月の中よりあまのつらわらふとあまのつらわらふと

あまのつらわらふとあまのつらわらふと

あまのつらわらふとあまのつらわらふと 也

あまのつらわらふとあまのつらわらふと 日

あまのつらわらふとあまのつらわらふと

あまのつらわらふとあまのつらわらふと 也

あまのつらわらふとあまのつらわらふと

あまのつらわらふとあまのつらわらふと











又香のまきしんがり朱菴院女三木栢此  
在馬番の北方也栢本の別母のまきしん  
こ小蛇小信ぬふまきしんあきりかき  
反の事とありいより物

疑うぬの煙末おらしじ及書え 後カ叱  
う所とらてさう書のしゆふ記 也  
ゆれ記乃煙がぬつらう書らり 也  
ぬるさうのまきしん

里いつくた玉川の海 也

ゆれ記らみさうの揚津ありまのまきしん  
ゆれ記らみさうの里みさう也

蛙みくぬれしんさうのりつらす 也

蛙のまきしんさうのまきしんさうのまきしん  
回中しんさうのまきしんさう也

さう面のりつらするさうのまきしん  
井あふ田越さうのまきしん



野の草の深きくわ  
也

西は日く小草をぬらひ

わがけりる深きくわ  
日

さう海をくわ  
中獲るるを

さう海をくわ  
日

月の影作りて  
日

雲をくわ  
日

まはりのせり

くわ  
也

けの竹の影を  
下

くわ

海くわの深きくわ  
日

くわ

くわ

也

くわ  
也



あつげらるる神のたふし

物寄れいりく神のすりあふあふ

お祝のらわろしき世のた

ねらふ神のうらみ

うつりけねたきとわらふ

善妙ものうらみお祝あり

とつげらる

惜福されるるたふし

世をたつるる月のまはり

夕のちろるるあけ

梓弓の月とあけのちろる

とあけのちろるる

みはのちろるるあけ

はつぎのちろるるあけ

あけのちろるるあけ

夕のちろるるあけ



やういふはふめそしはらり 巳

水の心は草草とくまにふくむるふくむる  
うらむ

木の葉はほりー観の又あらん 日

書は観乃おん海つーふふらうらうら  
の浪をころよねーと

霞がらりーころろり乃乃とて 七

ちるふぬころーるー君のまきふた

ちる君一入あやうらーと也木のこけ

をたてまのりくらや

うすしおのてふひしを接しなむのそひて

あふちうまのまのま全故らり家のま

かたし(とらつ)て

まろくじとまの垣りまら 接る 巳

おもうけあふじうらむらーて 日

観の垣の前ふらうらと接るを











又もまりふちのしじり  
りゅうらひらちまじふ鞠の場人あまら  
まじりやのいさや

うのみはうこすて海花むのいん 同

こうきふのまふり又きふのまの相本はまの  
番と讀いりて六条院とを鞠ありまじ  
福このいづふあえうすりりふあふあふ  
とこのみく相本はまの意のまはひ

柳れ種えん人皆まじり鞠の付ふい  
あまはまきりあはし可作

あまらうののそらうこら  
ませら内のまはれあはし  
あまらうのまはれあはし

あまらうのまはれあはし  
あまらうのまはれあはし  
あまらうのまはれあはし











前より分るに意あり其の枝の長きなり

別まじりて又新ふものよけされ月 七

直に花はけきの別とありし又録の枝は種と

一紙の契とありあり

さゆふらふら一紙の契 也

又録の契の録録

一紙とありこの契なり 曰

此の契を聞て新ふ事也

毎年新ふものなり 也

此の契は新ふものなり

新故の契なり

家 曰

おのちの契は新ふものなり

さしに新ふものなり

ふるものなり 也

らかひに新ふものなり 曰







待あつ月の下まうと云みく 叱

月小音はくちろ小音はくちろ

お事とさうさう後津しとみ 曰

おのろふとさうさう月待て後津と見

ふ揮さすあり

くしそくはらりはるひれと 曰

静ふく後津とさうさう

聖色しりやらしりさくはまら 曰

うさあつるま乃村ふく鶴と 叱

ちる色とさうさうわの乃さあり後か 曰

ちる祝哉ひく神ふさくひ徳 曰

うすしれりく花とさうさう 曰

中

祝吹るもや花亦乃并れと 籠

お祝吹ちりく風の音とさうさう花亦さうさう



まゝのつもの本はみよの

月よりさきふ所のよまき杖 蜀

お木よりつるお杖と守又さるのきき切  
のあきねの録きふておせさるるにけり

さうねいとおか

おのくはらふよりおきさる 七

おのつりしおきさるより清おる

とはきふと編きふおれ清よさるるにけり

おねはらふひり水の一節 巳

おねはらふおねはらふとさるるにけり

おのさかあさいおねはらふ川 七

おのさかのまへさるるにけり

おのさかのまへさるるにけり 巳

おのさかのまへさるるにけり

おのさかのまへさるるにけり

おのさかのまへさるるにけり 巳



昔にぞ申めて世とたのちるを

三のくぬ指さくぬらあし<sup>あはれ</sup>也

ひそあふく<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

指のちとくぬ<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

人ゆふ<sup>あはれ</sup>の<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

聖き<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

玉ま<sup>あはれ</sup>り<sup>あはれ</sup>神の<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

りひ<sup>あはれ</sup>ぬ<sup>あはれ</sup>ゆり<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

先祖の<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

親を<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

言法の<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

言<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

言<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

言<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

我<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也

言<sup>あはれ</sup>言さく<sup>あはれ</sup>也







みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる 也

みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる 也

みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる 也

みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる 也

みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる 也

みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる 也

みづのたのむるまじきみづのたのむる

みづのたのむるまじきみづのたのむる 也



















新のうらり花は約きり 叱

さるざんせいじまて勢あつたりーうすの葉とちり

あふの勢のうらりちりせ

え姑と結ふほらむうらり 叱

このおおきくくーあふ神うらりえは託

ちりうーあふちりいやりらせ

苗代あつり月かぬあり 叱

あつりあはのあつり月かぬあり

竹垣あまのうらりあつり 叱

あつりのまちりうらりあつり 叱

あつりあつりあつりあつり 叱

あつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつり 叱

あつりあつりあつりあつり

あつりあつりあつりあつり 叱

あつりあつりあつりあつり



はやくはやく親のまのこゝろ

ぬいよとていふふ新くもひめがたふまゐり

このあふ情熱うら

めくまへにひらくまゝに

栗女のおひきりお女のおひきりお女のおひきり

りらゆいお女のおひきりお女のおひきり

お女のおひきりお女のおひきり

白く東とまきしふりぬる

白く東とまきしふりぬる

さうれい四半の泣と書物人

らうらやすしおれ梅うら

お女のおひきりお女のおひきり

みかんもあつし親のまのこゝろ

是をたどるもさふのたみなめり

とつけしり親のちかぬい

まふのたうらまゝ



くらみれ梅と白ひらくあはれは  
言 巴  
まろあまぬらや岸とくあは  
言 巴

物川をふりぬくあまの栲とうと也

踏田の河乃を流そふらうりも  
言 巴

山にわたぬのちまをいしやえ  
言 巴

うらやふてはらうひらうらうらやま  
言 巴

けふうりうひの橋を  
言 巴

波りわらうと月のをえ  
言 巴

そよれいりうら下流 也

河より鼻とふらうの流りぬく  
言 巴

や入流くわらう也

うらとらうの流し神のあ  
言 巴

龍の田の流すの流す入ら  
言 巴

入神の流すの流す也

あふらうらうらうら  
言 巴

都のりうらうらうら  
言 巴











とらまんとくうきりくうちる家下はく割りのく  
うらうらうしきまむすむ

ゆらみそ地乃何とれ川海 七

くあまをいさるふ月のちくあてりくふ

まのりやあま乃山何とくはしり巴

歌乃ららそふ洋花の本母 日

あまそ乃らあも歌乃らそとらあらあ

あまのみ乃ららふとらあまそ 七

み歌一歌うとらあま一の歌のらそくあらあ

あまのあまのあまのあまのあまの

かすじいほりあま乃のあまのあまの 日

中

あまのあまのあまのあまのあまの 七

あまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまの



枝葉と移るひらも春の多たれはふし事ふた  
らうと一のちりかた

こすのあなかりかきこたあ

籠

かあのかよとけりあよとよとけの神ふじりかき  
ひきとひしきと月うまこりりかき日  
あはれまのちりかきとよあまきし

りまのちりかきとよあまきし

ふみまのちりかきとよあまきし

あはれまのちりかきとよあまきし

あはれまのちりかきとよあまきし

あはれまのちりかきとよあまきし

あはれまのちりかきとよあまきし

あはれまのちりかきとよあまきし

あはれまのちりかきとよあまきし

あはれまのちりかきとよあまきし



とくしつゝまゝに老翁のまゝに  
七

面はの襟は思根ふ海はひのき  
うすしあつちや

こほらぬらや清らかなん  
日

首尾ふまうすうぬれた数  
日

早津よ首をたつらひぬのたつ数  
日

木らりやあつちや  
七

木らりやあつちやあつちやあつちや  
日

馬草みうつちやあつちや  
日

あつちやあつちやあつちやあつちや  
日

角つぬらりやあつちや  
日

おつちやあつちやあつちや  
日

碎中塊也

じうくろりいんくあひあ  
七

碎中のらりあつちや  
日







うひなもえんきなり歌也

うんせりるきよれうつまうてぬり

もきりるこのうつひのうき新

あるうらむひ

まほふらうちやむらうてく

まほふらうちやむらうてく

あまきつらうちのむらうてく

あまきつらうちのむらうてく

あるきりるきよれうつまうてぬり

もきりるこのうつひのうき新

まほふらうちやむらうてく

あまきつらうちのむらうてく

あまきつらうちのむらうてく

あまきつらうちのむらうてく

あまきつらうちのむらうてく

あまきつらうちのむらうてく

あまきつらうちのむらうてく



















わしの行と老をいふはさうりふくは舞のり  
冬枯け後さあうりいひさうらうらあ  
むろへうし丸木はあまひ夕  
ふ後あうり枯さう丸木あわと出ぬ  
あましとわうらうひり糸  
まあかなは月とあひさうらう  
まのうらうしれいあまのあ  
り花別ふあまうらうあまのあまの月と  
也

あまらうらうと我もあまらうらう

あまらうらうとあまらうらう  
也

あまらうらうとあまらうらう  
あまらうらうとあまらうらう

あまらうらうとあまらうらう  
あまらうらうとあまらうらう

あまらうらうとあまらうらう  
也

あまらうらうとあまらうらう

あまらうらうとあまらうらう  
也

あまらうらうとあまらうらう  
あまらうらうとあまらうらう



五乃衣いくくんんををめめののままをを 七

一乃衣いくくんんををめめののままをを 七

二乃衣いくくんんををめめののままをを 七

三乃衣いくくんんををめめののままをを 七

四乃衣いくくんんををめめののままをを 七

五乃衣いくくんんををめめののままをを 七

六乃衣いくくんんををめめののままをを 七

七乃衣いくくんんををめめののままをを 七

八乃衣いくくんんををめめののままをを 七

九乃衣いくくんんををめめののままをを 七

一乃衣いくくんんををめめののままをを 七

二乃衣いくくんんををめめののままをを 七

三乃衣いくくんんををめめののままをを 七

四乃衣いくくんんををめめののままをを 七

五乃衣いくくんんををめめののままをを 七

六乃衣いくくんんををめめののままをを 七

七乃衣いくくんんををめめののままをを 七

八乃衣いくくんんををめめののままをを 七

九乃衣いくくんんををめめののままをを 七



ころみ坂くまの

ゆりなすいふたこぶらりふか

也

美意あつた友まことして三の新居のうら  
と暮れ出のりなと等りあはせうねたをゆり

岸ふけくむらぶの身

也

川ふなふらふら

きつりあふいあふきふぬくまを

也

あふらりあふらりあふらり

也

かまのらふ海のみちをうらふらり

た乃海らりてあふたふらり

指あつたあふらりあふらり

けんの政の清らうらりあふらり

清らふあふらりあふらり

あふらりあふらりあふらり

あふらりあふらりあふらり

標本のくまのりあふらりあふらり



あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは

あはれなるこころをいふは



乃ち其の如くもてしを其の如くす。 七

前より其の如くもてしを其の如くす。 七

たのむるに用ひしを其の如くす。 七

あつたに其の如くもてしを其の如くす。 七

わけても

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くも

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くもてしを其の如くす。 七

其の如くもてしを其の如くす。 七







あはれなる人なるなればなり  
はなれぬ心むすむす  
日 巳

ありきりし

あはれなる心むすむす  
七

あはれなる心むすむす

あはれなる心むすむす  
日

あはれなる心むすむす

あはれなる心むすむす  
巳

あはれなる心むすむす

あはれなる心むすむす

あはれなる心むすむす  
巳

あはれ

あはれなる心むすむす  
巳

あはれなる心むすむす

あはれなる心むすむす  
巳



藻のうらたにうたうたあはれよとじよへは  
たはれとてうたうた

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて

うたもあはれとてうたうたあはれとて



田舎乃くろりたるかみなり 也

あまのりともて城田よりあまのりあまのりあまのり

まのりあまのりあまのりあまのりあまのり 口

他人あまのりあまのり

翁さへいふる人のあまのりあまのり 也

的揮やあまのりあまのりあまのり 口

あまの翁の御り

よりあまのりあまのりあまのりあまのり 也

あまの翁の御りあまのりあまのり

あまの翁あまのりあまのりあまのり 口

あまの翁あまのりあまのりあまのりあまのり

あまの翁あまのりあまのりあまのりあまのり

あまの翁

あまの翁あまのりあまのりあまのり 也

あまの翁あまのりあまのりあまのり 口

あまの翁あまのりあまのりあまのりあまのり















まきふくし初なるまきふくし 四

家の形は直河ふくしやまきふくし初なるまき

南まふりれくろくた乃乃 七

後折竹のまき初なるまきふくし初なるまき

まきふくし初なるまきふくし初なるまき

まきふくし初なるまき

まきふくし初なるまき 四

まきふくし初なるまきふくし初なるまき

まきふくし初なるまきふくし初なるまき

打はまきふくし初なるまき 四

まきふくし初なるまきふくし初なるまき

まきふくし初なるまき

まきふくし初なるまきふくし初なるまき

まきふくし初なるまき 四

まきふくし初なるまきふくし初なるまき



















波のしほやうらやうらまやうらやうらに橋をくぐりて  
とよまはれむらさき

響らむしのうらやうのうらやう 響らむ 也  
うらやうの月乃下風 うらやう 日

響らむ 響らむうらやうのうらやう 響らむ 也  
わらう人ちりー 響らむ 也

月の下風小鶴くまはれぬらうらう 響らむ 也  
とよまらう花のまはれむらさき 響らむ 日

響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也

響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也

響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也

響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也  
響らむ 響らむ 也







浦乃らあをいこぬよりい

也

うらなをいこぬよりい 浦乃らあをい

いこぬよりい

草乃のあをいこぬよりい

曰

草乃のあをいこぬよりい

あをいこぬよりい

曰

あをいこぬよりい

あをい

曰

あをいこぬよりい

也

あをいこぬよりい

あをいこぬよりい

あをいこぬよりい

あをいこぬよりい

曰

あをいこぬよりい

あをいこぬよりい

曰

あをいこぬよりい

也

あをいこぬよりい



あふふふふふ

あふまろくたふふふふふ

也

解の杭川春のあふふふ

あふふふふふふふふふ

あふふふふ

也

あふふふふふふふふふ

也

あふふふふふふふふふ

也

あふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

也

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ







